

平成27年度 みやざき地域志向教育研究経費 概要

所属部局等	代表者
農学部	石井 康之
対象となる領域	地域志向教育研究経費区分
地域志向研究領域	地域課題解決型
プロジェクト名又は研究名	
地球温暖化に適応した飼料基盤の強化による酪農経営の確立	

概要説明

<プロジェクト又は研究の必要性及び目的>

近年急速に進行しつつある地球温暖化の影響は、宮崎県における自給粗飼料生産にも多大な影響を与えつつあり、標高200～400 mの中標高地帯に位置する本県の酪農地帯においても、従来の多年生寒地型牧草地の維持が困難となり、暖地型草種の導入が必要となっている。本県の酪農家戸数は284戸(平成27.2.1)に減少し、その経営の継続にあたっては、生産コストの削減が必須となっている。近年栽培研究が進行しつつある暖地型マメ科牧草のファジービーンおよび暖地型イネ科牧草矮性ネピアグラスは、このような酪農経営体への導入が可能であり、省力的に高品質の夏型粗飼料資源の供給を可能とする草種である。また、テフは夏の乾草調製用として、早期水稻・早期とうもろこし跡用作物としての栽培が期待されている。さらに酪農経営においては、適切な糞尿処理、飼料畑における土壌環境の適正な維持も、必須となっている。

本プロジェクトは、宮崎県における酪農経営の維持・発展に貢献できるような自給粗飼料生産基盤の確立に向けて、県内関係機関との情報の伝達および研究成果の発信、酪農経営体に対する研修開催を行うことを目的とする。